

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議専門部会（第6回）

2 開催日時

令和3年3月18日（木）午後2時00分から午後4時00分まで

3 開催場所

犬山市役所4階 401会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 構 成 員 服部敦、梅川智也、靱山貢、奥村好樹、片山義博（順不同・敬称略）
- (2) 執行機関 新原観光課長、小池観光課課長補佐、大谷観光課統括主査、
中柴観光課主事
- (3) 関 係 課 歴史まちづくり課、都市計画課、防災交通課 土木管理課、産業課
（別室にてモニター視聴）

5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 議題
 - 1 第4回、第5回犬山市観光戦略会議専門部会まとめについて （資料1）
 - 2 犬山市観光戦略 体系整理（修正案）について （資料2～4）
- (3) その他

6 傍聴人

0名

【資料】

- (1) 第4回、第5回専門部会まとめ
- (2) 犬山市観光戦略 体系整理（修正案）
- (3) 課題まとめ
- (4) 犬山市観光戦略 体系整理 令和元年度末時点
- (5) 観光戦略策定今後の予定

7 内容
事務局

こんにちは。

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

定刻の 14 時より若干前ではございますが、ただ今より「第 6 回犬山市観光戦略会議専門部会」を始めたいと思います。

愛知県においては、緊急事態宣言解除後の厳重警戒措置が 21 日まで延長されています。また、全国的にワクチンの接種の動きが進む中、変異株の感染も増えつつあるというようなニュースもあり、先が見通せない状況です。その中、この開催にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

さて、本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進め、長くても 2 時間、16 時までには終了とさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは最初に、服部部会長よりご挨拶をお願いいたします。

服部部会長

皆さんこんにちは。専門部会も今回で 6 回開催し、部会としての検討もだいぶ重ねて参りまして、コロナ禍ということで、なかなか集まらない不自由な状況の中で、活発な議論をしていただきました。このコロナという時期を、寧ろ大事な機会として捉えて、犬山の観光を見直す大切な時期ということで議論を深め、来年度、いよいよ本格化する戦略策定に繋げていきたいと考えておりますので、本日は、来年度に向けての今年度のまとめという形になるかと思っておりますので、本日も活発な議論をよろしくお願いしたいと思います。

事務局

ありがとうございました。

本日は総数 5 名全員の出席をいただいております。委員の過半数の出席がありますので、会議は成立していることを報告させていただきます。なお、この会議については公開で開催されます。

この会議の様子を犬山市役所 206 会議室にてモニター公開させていただいております。傍聴者の方は、会議中お静かにお願いします。撮影は自席からの撮影を認めます。録音については個人のメモとしての利用限り、切り取って公開することはやめていただくというような扱いになっておりますのでお願いします。この会議の内容につきましては、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、ご了承ください。

会議録につきましては、2 人の委員が署名することとなっております。名簿順ということです。前回、梅川委員と奥村委員にご署名いただきましたので、今回は、榎山委員と片山委員にご署名いただきたいのでよろしくお願い申し上げます。

それでは、ここで、事前に配布させていただいた資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

事務局

以上となります。よろしいでしょうか。

(問題なし)

事務局

それでは、議題に入らせていただきます。以降の進行は会議規則に従い、服部部会長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

服部部会長

それでは議題に入らせていただきます。

お手元の議事次第を見ていただきまして、議題は二つ用意されております。

今年度の部会のまとめと、それから観光戦略の体系整理を見直したものとということです。二つの議題について、関連しておりますので、一括で議論するというので、事務局の方から、まとめてご説明いただきたいと思います。お願いいたします。

(事務局説明)

服部部会長

ありがとうございます。

議論にあたって一つ確認なのですが、今日示していただいている資料は、次の親会議に専門部会ではこういう議論があったという報告としてのまとめがあり、前に議論した体系をこのように再整理してみましたというのが、両方とも親会議にこの形で上がっていくというイメージでよろしいですか。

事務局

基本的にはそういった考えをしておりますが、親会議は来年度の夏頃に1回目をやろうと思っております。もしかすると、本日のご議論等々を経て、もう一度、5月、6月あたりに、専門部会を開催させていただくかもしれません。いずれにしても、まとめとしては本日提示させていただいたものがベースとなつて、親会議に提出するという予定でいます。

服部部会長

もう1回議論があるかもしれませんが、親会議に議論、報告として上がっていくことを前提に、このまとめ方の内容について、こうだったかなというご質問、ご議論、それからまとめについての意見をいただきたいと思いますので、順不同で結構でございますので皆様方から意見、質問いただければと思います。

がいかがでしょうか。

梅川委員

確認というか、キャッチコピーを作るにしても、大きくキャッチコピーというのは二つあり、インナーキャッチコピーとアウターキャッチコピーがあります。私の認識は、これっていうのは、犬山市の10年間の観光まちづくりの計画を作るということであるので、関係者の皆さんが、これで行こうよという合意するためのキャッチコピーという理解です。でも、それを基にして、対外的に誘客宣伝を図るというアウターのものではないというところを少し、確認されたい方がいいのかなと思いました。

このキャッチコピーが、一般の観光客に出ていくということではなくて、我々がやっていくための、まとまっていくためのキャッチコピーだということを整理しといたほうがいいのかというのが1点あります。だから言ってみれば、我々の戦略を基にして、旅行会社さんとか、観光協会さんなんか、犬山市のポスター作りますというような、対外的なキャッチコピーとはまた違う、別のものかなと思っていますがどうでしょうか。

服部部会長

そこはどうなのでしょうね。

一つは、犬山らしさというのをどう表現して、共通のイメージを持っていくというキャッチコピーであれば、割とアウターとしてもインナーとしても、対応が同じようなものになるかもしれない。一方で、戦略としてのスタンスみたいなものであれば、インナー側のものとしてまとめていくという形で、両方あるのかどうかということですね。だから、犬山らしさの捉え方としては、多分両方に共通するようなものがあって、一方で戦略の基本理念とか基本指針みたいな、そういうものとして、こういうスタンスで進めていくというのは両方作るのかもしれないし、本当に犬山らしさというのをちゃんと規定するものっていうのは、ここでやり切れるかどうかわからないところもあります。そこはアイディアとしてまとめておいてってことなのかもしれないですけど、議論としては両方議論しておいていいのかなという感じはしています。

その他にご意見いかがでしょうか。

奥村委員

キャッチフレーズはキーワードで、犬山らしさを磨くということで、第1順位が水景という意味合いですか。

服部部会長

まだアイディアとしてそれが出てきているのです。
それで合意ができるかどうかですね。

奥村委員 この黄色の枠が、リーディングプロジェクトでしたか。
そして、水景がある。木曾川河畔の整備というのは栗栖地域の竹藪のことですかね。

事務局 そうですね。栗栖全体のことですね。

奥村委員 今実際に取り組んでいるものも入っているのですか。

事務局 現在進行している竹林整備ですとか、広範囲に山川なども入っていますね。

奥村委員 入鹿池が水というのがあって、世界かんがい施設遺産ということもあるので、入鹿池も黄色にして欲しいなという気持ちがあります。

服部部会長 もし、水というのが一つ重要な要素だと皆さんが思うのであれば、木曾川と入鹿池を繋げていくということはあるかと思います。

事務局 はい、承知しました。黄色はこれ決定したのではなく、議論の中で協議していますので、どんどんと意見をいただけるとありがたいです。

服部部会長 要は、入鹿池の優先順位がもっと上がってもいいのではないかということですね。
ざっくばらんで結構です。他にいかがでしょうか。

榎山委員 ターゲットが前もそうなのですが、かなり幅広いというか、ほぼ日本国民全部プラスインバウンドという感じなので、ここがもうちょっとメリハリを付けて、優先順位というのか、まずはこのターゲットを攻めてという強弱を付けた方が具体的な取り組みができるような気がします。これでは八方美人みたいな中身になってしまう可能性があるので、インパクトに欠けてしまう可能性は否めないかなと思います。やはりターゲットが決まらないと、政策も決まってこないのです。今パッと見た感じでは、そういう印象があります。

服部部会長 ターゲットに関してはいかがでしょうか。

梅川委員 位置付けが市の計画ということになると、ある意味八方美人も致し方ないのかなという気がします。だけど、名鉄さんの戦略となったらもうはっきりとターゲットを決めて、それでそれに対する戦略を考えるということだと思うので

すが、特に市の、いわゆる基本計画みたいな話になってくると、そこがちょっとぼやけるという言葉はあれですが、ある意味幅広い人達をターゲットにするとなるのは致し方ない部分なのかなという気はします。

服部部会長

観光戦略、観光のあり方としては、やはり多様性を確保していくということは非常に重要なことで、一つのターゲットだけだと、非常に脆弱になるということももちろんあって、若者だけに絞るのかシニアだけに絞るのか。それともインバウンドに傾倒するのか。インバウンドに傾倒してこういう事が起こると、非常に厳しくなる。そういう意味では、ある程度多様性の確保というのは重要なだけけれども、多分戦略としては、ある程度目配りをしていくのだと思います。一方で、例えばロードマップとか、アクションプログラムみたいのを考えていった時には、当然段階的に、例えばアクションプログラムとしてはどこから対象にして、どう広げていくのかというようなことを考えないといけないし、それから多分施策ベースでは、ターゲットをある程度はつきりさせないと施策にならないので、それぞれの施策については、ターゲットをかなり明確にして、磨きこんでいくということが必要なかと思っています。そういうご意見として受け止めて、磨きこんでいった方がいいのではないかと思います。

他にいかがでしょうか。

上の委員会にも上げていく話でもあるので、言葉遣いなど、気になるところがあればご指摘いただいた方が、今後に繋がっていくと思いますので、細かいところでも結構ですので、気になった点があれば、よろしく願いいたします。

片山委員

黄色のところ为重点取り組み事項ということで、とりあえず事務局としては検討してみてくださいということで上げていただいたものでしょうか。これは決定でもなく、まだご提案ということですよ。

事務局

過去2回の議論の中で出てきたことなんかも踏まえながら、ご提案ということで出させていただいております。まだまだ、変わってくる部分はあるだろうと思います。

片山委員

特に名鉄さんの二つの新しいホテルについては、黄色にさせていただいてもいいのではと思います。

服部部会長

リーディングプロジェクトというのが、どういう意味合いなのかということ整理しないといけないので、通常はすぐにでも始めること、すぐにでも着手することと言って、計画に書いたりするわけです。それも何年以内にとか、そ

ういう限定をかけていくのかどうかとか、その辺も整理していかないといけないと思いますね。

梅川委員 施策アイデアの中で、こういうことも考えたほうがいいのではないかと
いった話でもいいですか。

服部部会長 はい。お願いします。

梅川委員 一番上の災害、衛生、横文字で言えばレジリエンスの評価みたいな感じだ
と思うのですが、BCP みたいな概念ですよ。事業者だけじゃなくて、我々は
DCM(ディスティネーションコンティニューイティマネージメント)と言ってい
て、危機、リスクがあつて、お客さんが減ったときに、いかに地域としてすぐ
立ち上がるような体制を整えておくかという、そういった BCP だ
とか、DCM みたいな概念を少しこの中に入れておいた方がいいんじゃないかな
というのの一つ。

それから次に、滞在型観光という項目があるのですが、これもコロナ後にス
テイ思考みたいなものが結構大きくなってきているので、この空き家の活用
みたいなやつが、すごく重要になってきているのかなと思うのですが、単なる宿
泊施設としての活用、要するに古民家だけじゃなくて、コワーキングスペース
にしてあげるとか、色んな考え方があるので、この空き家活用みたいなやつは、
既にリーディングプロジェクトになっていますが、もう少し多様な考え方で進
めたほうがいいのかと思います。

それと体験コンテンツの中で、何だかんだ大切になってくるのが、食じゃな
いかと思うのです。やはりこういうところにきて、不味いものを食べるという
のは嫌なので、美味しいものを食べてゆっくりというのもあると思います。行
政の計画なので、食のレベルアップというのは中々書きづらいかもしれませんが
けど、事業主体の官民間問わず、入れ込んでいくのが基本計画だと思います
ので、そういう食のレベルアップだとか、多様性だとか、地産地消というの
がありえるのかちょっとわかりませんが、そういう食にまつわる話が入っていた
方がいいのかなという感じがします。

それから、次のブランド形成みたいな話は、たくさん多分アイデアがある
だろうから、もっとこれから詰めていく必要があるかと思いますが、次の、域
内循環(地産地消)というのはすごく重要な概念だということで、今回入れて
いただいているので、高く評価したいと思うのですが、ここに入れていただ
きたい視点として、サーキュラーエコノミーの話なのですが、いわゆる資源を
きちんと管理することですね。簡単に言うと、文化財を観光客に見てもらって、お

金をいただく。そのお金がさらに文化財のことに活用されるというような、そういう良い循環ですよね。域内循環というのが良いのかどうかはわかりませんが、資源の保存と観光利用というのが、お金の面でも経済の面でも回っていくような仕組みづくりがあると、とてもいいかなという感じがします。

次の交流人口、関係人口増というのも重要な概念だと思うのですが、今盛んに各自治体とかが言っているのはワーケーションという言葉がありますよね。これ我々の業界というと、いわゆるビジネストラベルという世界なのですが、これには MICE なんかも入ってくるのですが、ブリージャーという言葉があってこれが出張に行く、更に一泊遊びの時間を加えるというのがブリージャーというのです。ワーケーションというのは、ワークとバケーションが合体したアメリカの造語ですが、このワーケーションというのが結構犬山は企業の立地も多いので、可能性として非常にあるのではないかとずっと思っていて、だけど何か新しく大規模な施設を作ることではなくて、さっきの空き家の活用みたいなものと組み合わせて、若い人たちが起業、スタートアップできるような、そんなコワーキングスペースを作りながら、ちょっとでも名古屋だとか自宅で仕事をするよりも、ちょっと郊外に来て、いつでも船下りができるような環境の中で仕事をするみたいな、ちょっと夢みたいなことかもしれないですけど、そういった可能性はむしろ犬山みたいな立地のところが、やる意義があるのではないかと考えています。

今、国も言っているし、各自治体もみんなワーケーションと言っているのですが、確かに地域の関係人口を増やしたい、企業も密になるといけないので会社に来るな。働く方も、せつかく働くのであれば良い環境でというので、色々なところのニーズが合致して、こういう政策が注目されていると思うのですが、ワーケーションは意外と犬山はいけるのではないかと考えるのです。それがうまくいけば、移住・定住政策みたいに、今まではありえなかったような、若者が定住していくとか、そのような、観光振興の範疇からはちょっと離れるかもしれないけど、そういう移住定住が増えていくなんて一番良いことだと思うので、そんなようなこともこの中に入れたほうが良いのかなと思います。働き方がこの頃は随分変わったと思います。私の古巣の会社なども、1週間に3回以上会社に来るなど言われているところもあって、働き方も大きく変わってライフスタイルが変わってきて、その受け皿として犬山は良い立地にあるのかなと思いますね。

それから教育というのがあるのですが、これは多分、一般的な教育の話ではなくて、観光人材育成の話かとは思いますが、例えばガイドなんかも含めて、観光人材育成は結構力を入れた方が良いかなという気はしています。

あとは、木曽川河畔整備の黄色のリーディングプロジェクトってすごく重要

だと思っていて、この観光戦略の中でどこまで詰められるかわからないですけど、これは犬山の10年間の観光まちづくりにおいて極めて重要で、僕からすると、まさにこれこそリーディングプロジェクトかなと思うのですが、昨日実は夜に連れて行ってもらったのですが、真っ暗なんですよね。これはやっぱりまずいなと思いました。せっかく桜並木があって堤防があって川が見えるというところなので、あそこそ一番レストランやホテルが立地する一番の実は良い場所なので、産業誘致のための土地利用みたいな政策がないかなと。そういうことを誘導するような、聞いてみたら商業地区になっているということですけど、それはもう何でもできちゃう。住宅、マンションなっちゃうと取返しがつかないので、土地利用の問題から含めて、政策誘導の話なのかなと思います。たぶんハードの話だけではないです。

最後ですけど、前回DMOのお話をさせていただいたのですが、DMOになるかならないかは別にしても、科学的に何かやるっていう、データに基づいて科学的にやっていくっていうのが、お金がたくさんある時代であれば良かったんですけど、お金にもマンパワーにも限界がある中で、効率的な政策を打つためには、科学的に観光客だとかのデータをきちんと踏まえて、戦略的に打つということで行くと、DMOというのはそれをやれということですよ。だからそこはきちっと、下にもデータプラス経験に基づいて書いてあるんですけど、そこは重点的にやっていくべきかと思います。

服部部会長

先生の話の中で、文化財からお金が上がり、それが文化財の修復、整備に回っていく循環を作り出すという話がありましたけど、観光に関わる自主的な財源というか、そういうのを自律的に賄っていく仕組みというのは多分そういうところに繋がっていくのだらうと思います。下の観光まちづくりの体制整備の中で多分重要な話として財源確保というのがあるはずで、議論もあったと思うんですけど、ちょっと表にあらわれていないので、今の点も含めて表しておいた方が良くかなと思います。

それから、空き家活用の話がありましたけど、下の方の関係事業のところにはワーケーションがあって、そこに関連がありましたよね。おそらくこの施策アイデアや方向性は相互に関連するところがあって、後でまた来る時に、空き家とワーケーションというのは、両方で一つの施策になるなんて形になってくるだろうから、今はキーワードとして整理してあるのだけど、施策にするときは何かと何かをくっつけて施策にするみたいなまとめ方になる可能性が非常にあるのかなという感じがします。その辺をちょっと今後のまとめ方として頭に入れておく必要があるかなと思ってお話ししました。

その他いかがでしょうか。

今みたいに、これが抜けているのではないかとか、この用語はどういう意味とか、その辺ご指摘いただければと思いますが、いかがでしょうか。

私から少し質問ですけど、災害・衛生のところの事業者を取りまとめ、連携というのが、何を表しているのか今一つわからなかったんですけど、何を表そうとしているのですか。

事務局

コロナ禍で特に感じたのは、事業者間での話し合いだとか、そういった方向性で安全な観光地ですよというのを打ち出していく。その取りまとめというのが、特に行政の我々は非常に無力感を感じまして、どうしたら一丸となっていち早い回復に向けた取組みに着手ができるのかというところが、非常に課題かと思いました。それは、もしかするとこのコロナということだけではなく、災害時の地震とか、何かそういった自然災害等のときも、何かせーのでみんなが動き出せるような仕組みというのが今はないと感じまして、こういった取りまとめ、連携、特に連携ですね。そこが大事ということで書かせていただきました。

服部部会長

おそらくそれは先ほど梅川先生が話されたリスクマネジメントの話ですね。それは多分下の推進体制の構築の方で扱う話かなと思うので、災害・衛生でこう書くと、概念が広いですから、なんかちょっと違和感があると感じましたね。施策ベースのアイデアを落とし込んでいくのと、そういうマネジメント系は下の方に入れていくとか、そういう整理の仕方も少し考えつつやった方がいいかなと思いますね。

梅川委員

確かに今回コロナの対応で、地域としてガイドラインを作っているところがあったので、業種別、旅行会社はこういう感染対策をやれ、航空会社、鉄道会社、ホテルはこれをやれと業種別はあったけど、地域でどうやってやるかなんてあんまり出ていなくて、京都とか、城崎温泉とかで作っていたかと思うんですけど、多分それをおっしゃっているのかなと思っていましたが、行政だけだとなかなか民間とのパイプがないところは、そういう地域マネジメント組織が、そういう取りまとめをしているというのがあるので、確かにこっちの下の方のマネジメントに入れるのいいかもしれないですね。

服部部会長

地域マネジメントというの、十分確立されてないところもあるんですけど、例えば別の業種で、衛生管理の概念で、地域 HACCP というのがありますね。北海道の方でかなりやられていますけど、その HACCP というのは、もともと工場の中だけの衛生管理システムでしたが、工場の中だけで衛生管理は成立しな

くて、実は水揚げから出荷までいろんな業者が関わって地域全体で衛生管理しなければいけない。その横の繋がりが必要なのです。北海道の中標津の方で、最初の地域 HACCP を作って、私少し勉強に行ったことがあるのですが、そういうマネジメントシステムの構築みたいなものが、多分観光でも必要なんですよ。そういう地域 HACCP のマネジメントシステムというのは、それぞれ別分野なのだけど、参考にはなるので、そういうのもちよっと頭に入れてながら考えるようにした方がいいかなと思います。

梅川委員

新しく観光衛生マネジメントという概念が、今回のコロナで出てきたので、面白いなと思います。

服部部会長

日常のそういう品質管理とかね、そういうのを地域的な連関が必要になって、多分リスクマネジメントだけではなくて、住民対応みたいな日常的な話もそうだし、品質をいかに確保していくのかみたいなもの。QOL を上げるということも含めて、そういう連携マネジメントがすごく重要になってきて、地域全体でいかにやってくるか、それこそまさに DMO そのものという話ですけどね。やはりその辺の構築みたいなのがすごく大事なことですよね。

梅川委員

その観点で一点。

小池さんが前にやられていた観光まちづくり会議でしたか。ああいう市民の皆さんが集まって、色んな議論をするという取り組み。あれこそ観光まちづくりだと思うのだけど、ああいうのはやはりやっていくべきだと思うんですよ。というのも、こういう災害の話もそうなのですが、観光に対するリテラシーの向上というそのオーバーツーリズムの問題が出てきたり、何か観光の負の面が出てきたときに、そういう場があると、そういう活動をしていると、一歩引いて彼らも考えてくれたり、本当に文句があったら、行政に直接で話す場もあったりですね。例えば海外でも、ベネチアとか、アムステルダムだとかでは、結構市民に観光のプラスの面だけでなく、負の面も説明しながら、市民レベルのリテラシー向上をやっているのです。そういう意味で、続けられてきた観光まちづくり会議というのは、引き続きやられておくと、何かと何かやる時に、ものすごくプラスになってくるのではないかなと思って、どっかにそういう項目が、市民との連携なのかどうかわかりませんが、なんかそういうのも入れていた方がいいかなと思います。

片山委員

木曾川河畔の賑わいとか、河畔整備、もちろん城下町も含めて、これはもう必須条件と思っています。この左の方に、ユニークベニユーの開発とあるので

すが、ユニークベニューっていうと明治村であったり、リトルワールドであったりというのは、事実としてありますが、それ以外に開発するというのが、どういうところがあるのか。例えば、僕の持論なのですが、犬山城を活用するのが一番いいと思うのですが、なかなか活用できないっていうのはわかっています。それ以外に何かユニークベニューって考えられるのでしょうか。

事務局

残念ながら今のところ、提示していただいた以外のものというのは、具体的な案とか、施策があるわけではありません。必要性があるものということで、対応のところに書かせていただきましたので、今後色んなもの、いろんな方を巻き込みながら開発していくといいなというところで、願望みたいなことになってしまいましたけど、そのレベルです。

服部部会長

そう卑下することではなくて、犬山城は当然ユニークベニューとしてあり得るし、名鉄さんがどう考えるかによりますが、如庵なんかも、当然そういう対象として通常考えられますよね。それからそういう城下町のいわゆるガイダンス施設。これが更に拡充していくかどうかわかりませんが、からくり館とか、どんでん館、あれもユニークベニューの対象ですよ。町家そのものがユニークベニューの対象になったりして、まちづくり会社の壺番館、弐番館もですよ。そこを2階使って活用することもあり得て、町中に点在するユニークベニューを繋げて、犬山の中でそういうビジネスの展開をしていくとかですね、そういうのは十分あり得るわけですから、そんなに卑下することではなくて十分に犬山の中に資源はあるのではないかと思いますね。

事務局

今部会長からお話いただきましたけど、以前に火事で燃えてしまいましたけど、弐番館のところでも以前、国交省だったり、内閣府だったりの方がいらっしやって、会議を開催していますので、そういった活用というのは、これからありえるのかなと思います。

服部部会長

それからキャンプサイトなんかもユニークベニューの一つですよ。今自然の中でビジネス展開しようという思考も出てきていて、栗栖園地を活用するというのもそれはそれでまた面白いわけですよ。いわゆるグランピング的な整備をしながら、そこでちょっと高級感があるところで、割とハイクラスの人たちがキャンプしながらビジネスミーティングをすとか通常に行われていますので、犬山がその適地だと整理をすれば、そういう可能性も出てくるかと思っています。

梶山委員

例えば、今会社だとキーワードとして、SDGs とかカーボンニュートラルとか言っているのですね。市が出す観光と言っても、そういう視点の、そういう切り口での何か取り組みみたいなものというのは、ありうるのですか。

梅川委員

SDGs なんてまさに、17 つの目標がありますけど、最初観光分野で関係するのは4つぐらいだねとか、言っていたのですが、今 17 つの目標全てに観光が絡むという話になってきて急激に SDGs に対するやる気が上がってきているとか、やはりやっていかなきゃいけない。サステナブルツーリズムと言ったら、やっぱりあれだよねというような、常識になってきているので、当然キーワードとしては入れなければいけないですかね。

カーボンニュートラルについてもそうだと思いますね。

事務局

少しよろしいでしょうか。

正にその話は、今般の議会の中でも、私共犬山市も 2050 年に向けて宣言をいたしたものですから、これはすべてのカテゴリーに起因していると。コロナになる前は、SDGs については、17 のうち4項目だけかもしれませんけど、すべてにこれも起因するものですから、これは良いご指摘であって、多分この計画にもなくてはならない項目と言いますか、フレーズですので、そういう形にしないといけないかなというところがございます。

服部部会長

例えばですね、前ちょっと水の話をしましたけど、犬山から水を取って、この地域全体を潤しているということが、もっとそれを知ってもらえるような取り組みが行われて、いわゆるその環境観光みたいな形、観光教育的な観光みたいな形で、例えばそれを取り上げれば、まさに SDGs に叶ったものでありますし、そこまでやらなくても、例えば木曾川鶴飼そのものを取り上げて、これの持続可能性を考えていくことは、SDGs そのものでないかと思っておりますので、そういう意味ではそういう要素がかなりいっぱい詰まっていて、それをいかに顕在化させて、意識して今のニーズに合った形でそれをメニュー化していくのかということではないかと思っております。

あとカーボンニュートラルについては、多分交通を中心として、かなり重要な要素として観光をやるときに、切っても切れないものとして出てくるのではないかと思います、いかがでしょうか。

新年度にもう 1 回議論の機会があるかもしれないので、多少発散気味に言っていたいただいてもいいわけですよ。

奥村委員

ちょっと戻ってしまうのですが、ユニークベニューの事例とか、参考になる

かどうかわかりませんが、明治村さんで、今度商工会議所が式典をさせていただきます。会場が中々ありませんので、呉服座の芝居小屋で式典をさせていただきます。会議所の会頭が一番やりたかったのは、帝国ホテルで懇親会と言いたかったのですが玄関だけですから今回は無理でしたが、そういった使い方もいっぱいされているみたいですし、それも、重要文化財ですよ。畳1枚傷付けないように言われていますが、そういったことで、事例になるかなと思いました。あとは、教会でも結婚式されているみたいですし、そういった使い、あとはリトルワールドも色んな施設があるわけで、それもお貸しできますと聞いています。

梶山委員

明治村なんかはコスプレサミットまでやっていますからね。

奥村委員

それから、ワーケーションとか、先ほど始めて聞いたブリージャーですけど、これ今ちょっと調べたんですけど、これ犬山には一番かなと思いましたがね。ワーケーションですとどうしてもこの付近ですと下呂とか、長い間あそこで療養するとか、意味合いは違いますけど、犬山が一番いいのは、仕事をやってレジャーに行けるブリージャーなのかなと思いますね。そんなに滞在で長いことは、無理かなと思ったりしますから、ワーケーションがここに書かれたとしても、ブリージャーという言葉も必要かなと思いました。

ついでにすいませんが、もう1個の地産地消の域内循環ですかね。これ、それぞれ書いてありますけど、米もいるかと思えます。その他に書いてあればいいのですが、米も結構今、活用されていますし、大々的にバウムクーヘンとかやってみえますしね。その他であればいいですが。

服部部会長

犬山はそもそも美田が広がる、水田が広がる田園風景という大きな景観要素がありますからね。

さっきのユニークベニューっていうと、名古屋が取り組んでいる、名古屋城の再生というのがありますよね。木造化とか本丸御殿とか。あれをユニークベニューに繋げていこうという考え方は当然あって、金城埠頭とかです、ああいうでっかいMICEはあるのだけれど、あつちはでっかいMICEとしてやって、一方で、本丸御殿とか名古屋城とかああいう、非常に特徴がある、この地域のアイデンティティを見せるようなところで、結構その首脳とか、企業のトップレベルに来てもらい、そこで会議をする。観光を含めた、地域の特産を見ながら、地域の資源をみながら作業していくという方向で活用していこうみたいな議論は当然しているわけですよ。そこを名古屋だけで終わらすのか、名古屋と犬山で連携して、もしくは広域的にそういうユニークベニューを活用した、

まさに日本の中で、特に無形文化を代表するような地域というのがあるわけで、そういうところを工夫して、そういうユニークベニューを活用した地域戦略みたいなものを、犬山だけではなくて連携しながらやってみたいな話も当然あるのではないかと思います。

これは私の意見ですけど、犬山だけで話を完結させるのではなく、犬山と名古屋との連携みたいな話が当然あって、昔から歴史的に見ても非常に関係が深いわけで、尾張徳川の付家老として、成瀬がいる。犬山のお城がある。そういうことで、名古屋の城下町の三の丸の中に成瀬の大名屋敷があるわけです。金シャチ横丁の目の前が成瀬の敷地だったということも考えて、今後その再整備、拡張整備が進んでいく。そういうときに、犬山がそこにアンテナショップを出すのかわかりませんが、何らかの形で犬山の観光というのが、例えば三の丸金シャチ横丁の、観光戦略の中に上手く入っていくとかですね。名古屋ですごく最近人気がある、那古野四間道という境界がありますけれど、那古野四間道境界も堀川と犬山とは水運で繋がっていて、あそこが栄えたのは犬山からの水運があったからとか栄えたということを考えていけば、米、木材も含めて連携していく。

前に申し上げたのですが、例えばあそこに人気のレストランがある。犬山だと桃でも何でもいいのですが、非常に関係あるものとしてそこで出されて、人気が出て、それが翻って特産品として犬山で認知を得るようなことも、そういうプロモーション戦略も色んな形で取り組まれているところがあるわけです。それを人気の名店、隠れた名店みたいなこの人気メニューとして、注目されると翻ってそれが特産化していくということはいくつもある話で、名古屋の人気スポットを上手く利用しながらやっていくというような戦略も今後考えていった方がいいのではないかと思います。それも水を繋がりて説明はつきますがね。

その他いかがでしょうか。

梅川委員

そういう意味では、水系の政策アイデアが少ないような感じがしますね。

服部部会長

キーワードの組み合わせで多分施策は浮かび上がってきて、その時にどう特徴付けていくかということでしょうね。

空き家とワーケーションと、何々を結びつけて、何か一つの施策にしていたけど、そういうことがある。リーディングプロジェクトというからには、プロジェクトの形にしないといけない。そうすると、このキーワードのいくつかの組み合わせで、プロジェクト形成ができていきそうですよね。

その他、まとめ方等で気になるところ、意見のあるところありますでしょうか

か。

榎山委員

駅西のホテルの名前が、ホテルミュースタイル犬山エクスペリエンスということで、体験をメインにワンストップで色々やろうということで、今開発とか言っているかと思いますが、そういう具体的にどんな体験ができるのかなと。これだとあまりよくわからないので。

服部部会長

体験観光拠点になるということですよ。

榎山委員

そうですね。

服部部会長

拠点ができるのはホテルの低層階のところです。

片山委員

今六つのアイテムをやるということは聞いています。

ボランティアガイドの拠点となって、そこから毎日デイリーで行うとか、焼き物とか、和菓子づくり、あと鶴飼。座敷鶴飼は市の文化遺産ですよ。両方がwin-winの関係で、おもてなしとPRということでやると聞いています。

榎山委員

他にも色々、体験メニューは探せば出てくると思います。

奥村委員

座禅はどうか。
瑞泉寺もあるし今井にもあります。

片山委員

座禅はいいですね。コストもかかりません。

榎山委員

犬山にはアクティビティというのはあまりないですか。

片山委員

ラフティングがありますよ。
あれ聞いてみたら真冬でもやるという話でした。

服部部会長

頭首工で終わっちゃいます。

奥村委員

入鹿池だとワカサギ釣りがすごいですよ。

榎山委員

名古屋の観光ということで、県の観光メニューの担当者と話しをしていると、ジブリパークが来年できるので、それをジブリだけで終わらせたくない思

服部部会長

いがものすごく強いです。だから連携といったものか、広域連携みたいな。

各自出尽くしたでしょうか。

一つ、改めてお伺いしたいのが、前回も少し議論しましたけど、犬山市らしさをどう出していくのかというところで、一つ水がキーワードではないかという話は出しました。当然、水だけでキーワードになるわけではなくて、まずは城下町というのは、歴然としてあるキーワードというか観光資源としてあるわけで、キーワードを城下町という形にすると、少しく地域が限定されて、周遊性といったところに限界がある。もう少し全体をくるむような概念がないか。他に概念がないかなというところで、犬山の歴史とか自然とかを読み解いていくと、一つ水があるのではないかと提案させていただいていますが、そういう形で、それをどう表現するかですけど、水だということで、少しそれを磨きこんで、織り込んでいくみたいな方向でいいのか、もう少し他にもこういうのも頭に入れたほうがいいのではないかと。事務局と相談しても、今の段階でもう水で走っていきみたいところで、必ずしも踏ん切れるものではないと言っていましたので。

城下町は、もう誰も彼も、同意するところとしてあると思うのですが、それ以外のところをもう少し、はっきり顕在化させて、磨き込んでいかないと、表に出てこないところもありますので、来年の議論の中で、その辺ははっきりさせ、少し明確にさせていって、全体の行動指針の中に落とし込んでいく必要があると思います。こういう、水のようなまとめ方でいいのか、他に何かあるのか。この辺はいかがでしょうか。

私の感覚ですけど、犬山は犬山城が国宝になって、それから祭りもああいった形で文化財として認められて、世界遺産になったということで城下町の資源に関してはかなり価値付けがはっきりしてきているのですが、それ以外の資源があまり明確に価値付けされてないかなと思います。その辺の価値付けの取り組みが少し城下町と他のところで、温度差というか差があるかなと思います。翻ってみた時に他に良いものはないかっていうと、そんなことはないのですが、そこはやっぱりその価値付けの取り組みの温度差とか、スピード感の違いみたいなものが大きく影響しているかなって感じがするんですね。もともと、犬山観光というのは、日本ラインから始まった観光で、当時はそれで相当な価値付けがされ、一時期はそれで賑わったのだけれど、それが大分、認知が全国的に低下している。その中で、それを再度ルネッサンス的に、表に浮かび上がらしていくのか、もっと別の形で、はっきりとその価値があることを見せていくのか。そういう取り組みがやはり必要かなというのは私の感覚です。そういう水絡みの、景観とかですね、そういう資源も、取り組みによっては文化財とか、何ら

かの価値のあるものとして位置付けていくことは可能だろうと思うので、そういう取り組みも含めてやっていったらどうかなという感じはします。

犬山らしさというのを、どう見せていくか、どう表現していくのか、それを観光戦略の肝として、どう位置付けていくのかに関して、ご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

梅川委員

やっぱり一番気になるのは、犬山の犬ですね。これって何か地名の由来ってあるのですか。

事務局

それに関しては諸説ありますね。

昔狩りをするのに犬を用いていたとか、大縣神社から犬山城の方向を見ると戌亥の方角になるからとか、あとは「おのやま」という地名が訛って行って犬山になったといった諸説は聞いています。

ちなみに全国で地名に犬が付く自治体は犬山市だけですね。戌年のときにはかなりフィーバーしましたね。

梅川委員

今、秋田犬ツーリズムと言って、秋田県なんかは犬ですごく潤っているわけですね。あれはザギトワが、大好きだということもあったのですが。そういう犬だけでも観光で上手くやろうと思えばやれるような時代になっちゃったので、どうも動物の名前が市の名前に付くなんてことは本当に数少ないので、何かこう掘っていくと色んなことが出てくるのではなんてそんなことを思いました。

服部部会長

よく言われるのは犬と猿ですね。昔はそういうので、非常に有名な動物病院があるので、動物病院を絡めた、病院ツーリズムみたいな何かしらとか、ドッグランを整理すべきじゃないかとかそういう議論は随分前にやったことがありますよね。

梅川委員

国際的な医療観光、メディカルツーリズムというのも今すごいです。今はコロナでダメですが。日本の医療はやはり進んでいるので、海外からそういうニーズが結構あるみたいですね。厚生労働省も随分やろうとしていますから。

服部部会長

桃太郎伝説なんかもありますよね。

犬と猿を繋げて、あとは雉がないかという話ですよ。

梅川委員

川の話になりますけど、犬山から取水された水が、名古屋の水になっている

という、原点、水のふるさとみたいなことなので、水というのは、やはり印象も良いし、上手く使いたいと思いますね。観光的に、水でこう誘客みたいな話はあまり直ぐ結びつかないですけど、川の景色みたいなものは価値が高いですし、わざわざ日本ラインという名前を付けたぐらいなので。木曾川は非常に観光地として使えると思うのですが、それ以外のその用水だとか、農業用水だとかそういったところをどう使うかですよね。

観光ではなく、レクリエーション的に使うというのもあります。先ほどのラフティングだとか、ワカサギ釣りだとか、そういったレクリエーションで使うというのものもあるかと思います。でもこれは広域的に誘客力があるかというところでもなくて、やっぱり県内とか、近場の方々が犬山に来てレクリエーションするということだと思います。今の時代そういう近場からの誘客も重要となると、そういう水の使い方もあるかなと思います。

関東から誘客とか、少し広域的にこう誘客するインバウンドとなると、木曾川がメインになるのかなと思いますけどね。

まあ、世界的な溜め池である入鹿池。木曾川と入鹿池を一連の水景としてあるかと思っています。それが犬山の階層を占めていくので、それが全体の緑とか、それから農産物とかを潤していると。犬山から取水された水がなければ、名産品である守口大根もないわけで、何か一つのストーリーの中に、色んな食も含めて、落とし込んでいく。

もともと日本ラインのときにお客さんがたくさん来ていて、食べられていたのはおそらく鮎だったろうと思われまして、料亭がたくさんあって、鮎を中心とした料亭料理なんかも楽しまれていた。

一番下流域にある鮎の釣り場所であるということもあって、結構釣り客もたくさん来られているわけですね。そういう意味で、あまり鮎にクローズアップしているわけではないですけど、食をどうアピールしていくかというときに、例えば豆腐田楽というのも一つの産物としてあるわけです。そうすると、豆腐ですとか、鮎、それからそういう水を使った特産品というのが犬山の一番の売り物ですよとかですね。なんかその一貫性のあるストーリーを中に落とし込んでいってアピールしていくのが一つの戦略なのかなという感じがします。それがバラバラにこう出てくるのではなくて、日本ラインの犬山の景観と結びつけながら、犬山にはこういう特性があって、ストーリーが繋がっていて、水の良さがあるのだというところでみんな楽しんでいただく。

大垣で水饅頭を食べるのも、お城があって、水が流れていて、そこで水饅頭が冷たく冷やされているから、皆水饅頭を食べるわけで、そういう売り方、見せ方というのを工夫していかなくちゃいけないだろうなと思いますね。そのス

トリーとして繋げていくというところがはっきりしていない。日本ラインも昔、志賀重昂が言ったから当時は爆発的に人気になりましたが、その後霊験はだんだん薄れてきているので、もう1回その日本ラインを新しい形で価値付けしていく。SDGsって背景があってもいいのかもしれない。この地域の水を潤しているのは犬山からだ。頭首工があるから地域全体の農業とかが潤っている。それを皆さん学んでくださいっていう形をとるのは良いことなので、農水省の方もあれは非常に重要な施設で、他になく非常に面白いダムだと主張していて、協力してくれれば、農水省も協力したいと思いますけどね。そういう意味で、普段はわからないけどああいう頭首工みたいな、土木構造物がある。あれで、潤っているということは、もうちょっと情報が表に出れば、それを学んだり、楽しんだり、付加価値として認識するということはあるのかなと思います。あそこで頭首工が水を貯めているからこそ、犬山城が映る景色というのができた。あそこで水止めしなければ、犬山城が水面に映る景色というのは生まれてなかったわけですよ。あれ、あえて意識してあそこに映るように、頭首工の場所を作って、お城をちゃんと映したわけです。そういうことも含めて知ってもらおうと、来られた方も思われますよね。

そういう情報発信とか、価値付けみたいなものというのは、すごく大事なことかなと思いますね。それがどこまで売りになるかということも突き詰めなきゃいけないですよ。

梅川委員

10年ぐらいでやろうというこの計画自体が、犬山の10年の観光まちづくり戦略なので、そういう志を持ってやれば、必ず水にまつわるストーリーができてきて、行ってみるとなるほどなという。誘客のアピールは木曽川が主体になるかもしれないけど、行ってみたら深いシナリオとかストーリーがあったということによってまたさらにもう1回行ってみようとか、リピーターに繋がるということもあるから、決めるのであればしっかり決めて、十年間きっちりやる。それこそ長期戦略でしょうね。そこに空間の整備もついてこない、行ってみてがっかりではかえってマイナスになりますからね。

服部部会長

そこは多分重点的に決めないと、そういうハード的な整備が伴ってこないと思いますね。この間議論していたのですが、日本国内で考えると、いわゆる水都とか、水をテーマにした観光地というのは、何か所かあるけども、割と柳川とか、ああいう水郷の町が表に出てきて、割とこういう単位が大きな川沿いのゆったりとした川の観光地はあるようでないわけです。ある意味で一番近い岐阜の金華山と長良川というのは、それに近いものかなという感じがするのですが、あちらの方は、まさにそれを価値付けして、鶺鴒も含めて重要文化的景観

に取り入れて、観光発信しようと。そこで重点的な整備をして、川沿いのハード整備なんかもしっかりやって、ガイドンス施設も作っています。日本国内に目を移すと、あまりこういうタイプの観光地はなくて、割とヨーロッパ的なのかなと思います。ライン川だとかドナウ川ですとか、ドイツのロマンチック街道ですとか。そういうタイプの観光で、ちょっと日本にあまり類がない感じがして、それはそういう特徴として打ち出していく。もともとそうだからこそ日本ラインとして有名になったのだらうと思います。その辺は恵那峡なんかも含めて、この木曾川沿いの景観の価値をいかに連携してアピールするかとか、広域的な取り組みも必要なんだと思いますね。

榎山委員

多分、東京の人からすると木曾川のイメージは岐阜県だと思います。木曾川という川ではなく、木曾という言葉の響きがね。

服部部会長

もしくは、長野県のイメージがあるかもしれないですね。上流のイメージが強いので。中流のイメージが弱いのもっとアピールしていてもいいかもしれないですね。

梅川委員

川って一番中流に特徴が出ます。

上流は、森林があって急斜面で、下流に行けば、大きな空間が広がる。中流が一番やはり特徴が出ると思うので、まさに犬山辺りですよ。

最後の清流と言われた四万十川ってありますけど、あれもかつての中村市なんかに行くとした大きい川で全然特徴がないですよ。やはり中流域ですよ。十和村などの川が蛇行したところに農業景観が展開していて、そこに鯉のぼりなんかが上がっているととっても日本的だなということで、昔はお客さんなんてだれも行かなかったのですが、最近では行くようになってきていますからね。だから中流域ってすごく重要ですよ。

服部部会長

扇状地としての入口のこの景観というのは他にはないですから、アピールしていくのはあるのかなと思いますね。

ハード整備を伴いながらになりますかね。

梅川委員

あまりに勿体なき過ぎですあそこは。真っ暗な河川ですから。

服部部会長

さっきの話は事務局には耳の痛い話だと思います。

規制、誘導の両方をかけながらやっていかなきゃいけない場所で、旅館が住宅に置き換わっていくと、二度と再生できないですよ。元々はあそこが犬山観

光の発祥の地なのでね。インディゴが建つところに遊園地があって、その周りに旅館ができて、犬山の観光が発展していった発祥の地ですからね。

やはりそこは、しっかりとした形で、あそこで見えるものが、いかに価値あるものなのかということを知っていただくことがすごく大事だと思います。

服部部会長

1時間半ぐらい経ちましたが、皆さんいかがでしょうか。
事務局から聞いておきたいことなどございますか。

奥村委員

名古屋経済大学さんが犬山学というのをやってみえて、その中で、木曾川の地層の中には世界で一番古いアンモナイトの化石が発掘され、その地層が残っているとのこと。それが木曾川の遊覧船でも見えますよね。あれがもったいないなと思っています。会議所の下にそのアンモナイトの化石の模型があります。世界でもかなり古いものだそうで、その世界の方にとってあそこは特別な場所みたいですね。あそこは海だったという説もありますよね。それは各務原側だともおもいますが、川の半分から向こうなので。そういった経緯がありますから、それがなんとかならないかなと思ひましてね。文化財、資源としてね。

梅川委員

今のお話でいうと、ジオツーリズムというのがありますね。

地形に関心がある方が、実は水面下に沢山いらっしゃいます。この間、岡山に行った時も、地形に興味のある先生方が頻繁に通ってこられるという話も聞きましたからね。

奥村委員

学会があるという話も聞いていますね。

服部部会長

独特な石もありますので、地質はまた一つの材料ではありますよね。

その辺はまた扇状地地形とか、そういう地形、地質という括りの中で、一体としてしっかりと見せていくという資源の作り方もありますよね。その辺は展示やガイダンスといった情報発信のあり方であって、どんな良いものがあっても、分かりやすく、ビジュアル的にかっこよく見せてないと誰も知っていかないので、材料はあると思うので、一念発起してこれをしっかり見せようということで、施設なりで情報を出していかないといけない。それは鵜飼もそうだし、あるんだけど情報を知ろうとするとどこにもない、お祭りと城下町しかない。お祭りと城下町のは分かるけど、それ以外が分からないのはいけないですよ。

奥村委員

遊覧船や鵜飼でも若干説明されたことがあるかと思ひますね。

服部部会長

ガイドンス施設は全くないですね。

岐阜の場合は、ようやく重要文化的景観の制定を受けてからガイドンス施設がきちっと整備されましたよね。やはりそういう価値付けがないとそこまではないですね。そういうのがあれば、川テーマでやれば今の地質みたいなのもその中でしっかり整備していけますよね。城下町の文脈だとそういったのは出てこないと思います。

その他いかがでしょうか。

事務局

ちょうどこの資料2に、地域の発掘創造で、城下町の中心地(本町通り)というのは黄色に色付けされており、確かに賑わっているものですから、我々としても、本町の賑わいを城下町全体にどうシフトしていくかというのが大きな課題であって、丁度その横に特色を出すと、大本町、下本町、魚神通りなど、先生も近くにお住みということもあって、とりわけ下本町は、多分皆様ご存知のように、城下町の北地区と南地区を、真ん中で当時防災外部ということで、ちょっと異質なストリートが形成されていまして、そこを何らか過去からですね、ちょうど繋ぐような形で色んな検討をしましたものの、住民の方も住んでいらっしゃるところがあってなかなか上手くいっていません。でもキーポイントだなというところでもあります。

魚新通りについては、ここも本町と一緒に、美装化ですとか、無電柱化を当時まち交を使ってやっています。たまたま私が都市計画課にいたときに、このまちづくり委員会で色々やったのですが、一方では犬山駅からの違うアクセスとしてお城の方に行くものですから、そこでも何らかのアクションを起こしたものの、後ろ向きな話で申しわけございませんが、地域住民の方がちょっとギブアップ状態な形で今普通の町並みというか、古いものが点在しているものの、普通の町並みになっているというところがございます。これを例えば、10年後見据えたリーディングプロジェクトという形で、なかなかこれ、官民というよりも、地域住民との連携がないと、なかなかこういうのは、観光まちづくりとして非常にハードルが高いなと思ってですね、それについて何かアドバイスがあれば、そういうものに対して取り組んでいくという姿勢というか、スキルというのですかね。

服部部会長

私が言うのもなんですけど、空き家の活用って書いてあるのが、単なる空き家なのか、その町並みに寄与するような、非常に特徴を持った歴史的な空き家なのか。実はそういう空き家もかなり点在していて、しかも最近になってどんどん壊されているということもあって、それによって犬山の特徴的な町並みが

どんどん失われる可能性がある。やっぱりそこを活用していく。そのときに、いわゆるマッチングと言われているもので、住まれる方と活用される方と両方がうまくマッチングされないと、それがうまくいかないの、そこをしっかりとやっていくことが一番大事ですよ。単に空き家活用事業というよりは、その歴史的な建造物の、活用としてのマッチングっていうのをしっかりとやっていく。そこに興味を持たれている事業者っていうのも、日本各地にあって、いわゆる古民家再生系とか、リノベーション系とか、いくつかそういう特徴のある戦略をお持ちの事業者さんがいて、そういう方を犬山に巻き込んで、財政的に支援をするかどうかはあれですけども、財政的支援だけじゃなくて、情報を含めたマッチング支援とか、それから地域にいかにか溶け込ませるかとか。犬山の場合は多分町内会やお祭りとも関係とかですね、多分その辺のサポートがないと事業者が入ってこられないというのがあって、そういう有形無形の支援というのがあるとそういうところに入ってきやすいと思います。

具体的な名前は言えませんが、昔本町通りに繋がる非常に良い建物があって、そこにそういうリノベーション業者が入ろうとして、うまくマッチングできずに、かなり大手なんですけど撤退したという話を聞いています。そういう意欲がある人たちがいっぱいいらっしやって、そういうので潤っていく、特徴ある町並みを保存しながら活用している地域はあるので、もちろん京都なんかはそういうのが得意なところですけど、犬山はまだまだ資源が残っているので、残っているうちにやった方がいいと思います。以前、多分反対されていた、嫌がっていた方も、時間を経る中で賛成される方もいらっしやるし、多分以前よりはそういう事業者の熟度が上がってきているので、ノウハウも上がってきていて、まさにそういうのがやれる時期になっていると思いますので、それはぜひとも、リーディングとは言わないですけども、やったほうが良いという感じはします。それは歴史的な木造建築物だけではなくて、下本町みたいな防災街区もそれなりの特徴なので、ああいうのも活かしながら、よく議論になるアーティスト・イン・レジデンスみたいな。まさにそうになっていますよね。下本町なんかは、昔の家具屋さんの建物なんか、最近リノベーションがかかって、いろんなダンスとか、それから作家とか、そういう特徴を持った事業者さんが、一つのビルの中に集まって入りつつあったりする。そういうムーブメントをやはり点じゃなくて横に繋げていくことがすごく重要なので、それを、犬山の城下町の中で、面として展開するっていうことがすごく重要なのかな。そこに行政としてどういう支援ができるのか、もしくは商工会議所とか、観光協会がどういうサポートができるのかっていうことを考えていく。お金だけじゃないサポートが十分あるのかなというふうに思います。

奥村委員

会議所で下本町の件は色んな話がありました。
昭和の町家だからあそこは残すべきだという方も中にはいます。
今の外観のところはですね。他のところはちゃんとした町家ですけど。

服部部会長

ああなったらあれはあれで一つの景観ですし、SOHO 的な感じでカッコいい
と思いますよ。まさに元家具屋さんなんかの建物は、凄くカッコよく変身しつ
つありますよね。

奥村委員

その他にも色々な町がありますけど、鍛冶屋町とか、材木町、魚屋町とか。
そういった町内の名前が残っているのは凄いなと思います。

片山委員

観光協会では、旧堀部家の武家屋敷を冬はクローズしていると思うのですけ
ど、当時は始終やっていたと思うのですが、うちの会長も結構力を入れて活性
化しなければということで、お茶を飲んだりとか、あと、鵜飼のパフォーマン
スじゃないけどそういうこともやろうとか、そういうことも色々やったのです
けど、どうも挫折してしましまして、なかなか長続きはしない。結局今の下本
町からお客さんをもっと南にとということも色々考えたのですが、中々持続でき
なかつたですね。

服部部会長

観光拠点的な整備だけだと、結局財源確保を含めて、持続可能性を確保でき
ないので、やっぱりその持続的に民間のビジネスとして、そこを活用して、ま
わしていただけるような事業者といかにマッチングさせるか。しかもそれがあ
んまり閉じないで、町に開くような形で入ってきてもらうかっていうのが味噌
なので、先ほどから出てきた、宿泊施設が当然あるのだけれども、民泊だけじ
ゃなくて、民泊とか、古民家再生旅館みたいなものだけではなくて、ワーケー
ションサイトとかですね。そういう形でビジネスとして展開できれば、もしく
は雑貨屋さんとかですね、様々な店舗として活用できるみたいな形で、いかに
意識のある事業者さんと呼んできて、そこに根付かせるようなマッチングと、
事業継続支援みたいなものをするかという地道な取り組みが重要で、そういう
ところで成功しているところもありますよね。多分一番参考になるとすれば、善
光寺周辺ですね。

善光寺周辺の、古民家再生や色んな商業ビルの再生みたいなのが、多分数年間
で 200 件ぐらい再生が行われていて、面的にもかなり集積してきて、それなり
のメッカになりつつあるので、善光寺周辺も一つの参考になるかと思います。
犬山と割と近いところはあると思います。

あそこは優秀な事業者さんが 1 人いらっしやって、その方が八面六臂の活躍

をしているのですが、今だんだん行政との、マッチングが上手くいきつつあるので、ああいうところは参考になるのかなと思います。

大分時間が過ぎてきましたが、事務局としてはこのぐらいでいいですか。

他に何かあれば、残り 15 分、20 分程度ですが。

よろしいでしょうかね。

ではこれで一旦議論はまとめまして、事務局の方に返したいと思います。

事務局

ありがとうございました。とても中身の濃いご議論ありがとうございました。犬山の観光については土日の集中、お城、城下町への集中をとにかく分散させるということを含めて、色々な犬山の楽しみ方、色々な見どころがあるということで展開していきたいと考えておりますので引き続きご協力お願いと思います。

一つだけ梅川先生の話の中で観光まちづくり会議をお褒めいただきましてありがとうございました。

ちょっと一つ情報というか、城下町に住む方の意識はですね、1年2年前はもう苦情しか言わなかった人が、最近は、まちの仲間を集めて、まちを考える会をやり始めました。私も呼ばれて行きましたけど、自分たちで何かをやらないういけないという意識は芽生え始めているのはやってきた一つの成果なのかなと思います。

今回はコロナでできませんでしたが、これは必ず継続していきたいと考えています。

それでは本日の議題はこれで全て終了しました。

最後その他でございますが、来年度の流れについて担当より説明をさせていただきます。

(事務局説明)

事務局

ありがとうございました。

それでは次回につきましては、改めてメールの方で日程調整をさせていただきますようお願いいたします。

それではこれもちまして第 6 回観光戦略会議専門部会を閉じさせていただきます。この1年間、コロナ禍において様々な活発な議論をありがとうございました。来年はいよいよ策定に向けた年となります。引き続きよろしくお願いしたいと思います。

それではこれにて終了とさせていただきます。

ありがとうございました。